ケース1 - ひきこもり

Aさんは、現在ひきこもり状態にある18歳である。父55歳、母50歳であり、妹12歳と同居している。

Aさんは、高校に１年生の秋ごろからクラスの6人程度の男子グループから殴る蹴るを伴ったいじめに遭い、4ヶ月後に学校に行かなくなった。学校側も早期にいじめに気づいて様々な手を打っていじめはなくなったが、暴力を振るわれたことに恐怖を感じ、いじめがなくなった後も学校に行くことができなくなった。

家族はＡさんが登校を渋り始めたときは、学校に行けと言っていたが、いじめ被害のことが分かってから、学校には行かなくてもよいという態度に変わり、Aさんが家に行くことを容認した。ただ、いじめがなくなれば、また元通りに登校するものだと思っていたが、いっこうに学校に行かないことに焦りを感じ始めている。高校２年はまったく登校できず、１年間は学校に籍を置いていたが、その後退学をした。親や学校の先生は通信制への転学を薦めたためＡさんは通信制に入学したが、スクーリング等に出ず、課題の提出もほとんどしなかったため、１年で退学をした。そこからひきこもり状態になっており、半年ほど続いている。

日ごろＡさんはゲームをしていることが多く、勉強はまったくしていない。家事は母親がやっていて家事を手伝うこともない。

高校には友人がいたが、学校に行かなくなってから関係が切れてしまい、会っている友人はいない。両親とのコミュニケーションは良好である。自室に閉じこもっているわけではないので、リビングなどで普通にコミュニケーションをとっている。買い物などで外出することには問題がない。

ケース2　ひきこもりから回復した青年

Bさんは23歳男性。60歳の父親と58歳の母親がいる。

高校1年生の時に不登校になり、1年後に中退をする。そのままひきこもり状態になり、およそ5年間ひきこもり状態が続いた。

現在から2年前、ひきこもりの支援団体に母親が相談し、その後、半年をかけて本人が支援施設に来ることができ、しばらくはカウンセリングを続けた(時点１)。半年ほど支援施設に通ったところで、宿泊型支援施設に行って元気になった当事者と話をしているうちに興味が湧き、支援者や親の勧めもあり、自宅から離れた宿泊型の支援施設に入った。

最初の頃は生活リズム合わず、体力が落ちていたため、つらさを訴えていたが、次第に慣れていき、現在は支援施設の周囲にある山間部で行っている林業の就労体験に参加する。

現在は、まだ技術は足りず、手伝いごとが多いものの、週5日毎日8時間、林業の仕事をしている。また、支援施設では家事の分担もあるため、毎日平均して１時間くらいは家事を行っている。

人付き合いは最初、苦手だったが、仕事の中で林業を教えてもらう先輩などと打ちとけ、支援施設に宿泊している他の仲間たちとも日常的に話をしている。仲の良い友人もでき、施設から街に遊びに行くこともよくある。

実家と施設が離れているため、両親と合うことは１年に４回ほどだが、ひきこもり状態にあるときより、状態は良くなっている。

* 時点１

支援機関には週３回、１日４時間通っていた。週１回は支援スタッフと１時間の面談をしていた。面談後と残りの２日は支援機関に併設されている居場所で過ごした。居場所には同じ悩みを持つ仲間がいて、次第に話すようになり、対戦ゲームなどを一緒にしていた。ただ居場所以外で会うことはなかった。また、支援機関以外に精神科に月１回のペースで通院していた。１回の診察は約15分であった。家族関係は、父親はひきこもりに関して関わりを避け、ほとんど話すことがなかった。母親とは特に問題なく話をしていた。

* 時点２(現時点)

時点１と時点２(現時点)の２時点のSOFASを計測する。

ケース3　うつ病で退職しアルバイト勤めの男性

Cさんは、３年前にフルタイムの仕事を失い、現在は実家で暮らしている28歳男性である。独身。父、母と共に暮らしていており兄がいる。兄は同居していない。

大学卒業後、印刷会社に就職し営業職に就く。残業時間が60時間(月)と長く、体に無理をさせて働いていたが、就職後3年で、体中が痛くなる、咳が止まらないなどの身体症状が現れ、何かにつけて怒ることが多くなり部署内での人間関係に問題が現れたことから休職した。最初は内科に通院していたが、医師の勧めで精神科を受診。うつ病と診断が出て、現在も引き続き通院・投薬をしている。会社は１年休職したものの体調が戻らず退職をすることとなった。その後、一人暮らしをしていた住まいを引き払い、実家に戻り暮らしている。

Cさんは、現在、抑うつ気分は感じられないものの、日々の行動などをするのが億劫で、新しい行動をとることになかなか積極的になれていない。睡眠にも問題がある。眠りにくく、途中で起きてもう一度、寝られないという。医師からは睡眠薬が処方され、眠りにくさはある程度なくなったが、睡眠の中途で起きてしまうことは依然としてあるようだ。会社に勤めているころより10kgほど体重が低下したが、現在は体重の増減はない。

１年ほど前からコンビニのアルバイトを週４日程度行っている。シフトは毎回8時間である。疲れやすく、週４日以上の勤務は難しいという。月に1度ほどは欠勤があるが、数日前に同僚に代わりを頼むなどしている。家事はすべて親に任している。

小学生のころからサッカーを習っており、大学時代や就職後もサークルでサッカーを続けてきたが、現在は「体力がない」「やる気が起きない」という。アルバイト勤務をしている以外の時間は、自室でサッカーの試合をテレビで見ていることが多い。地域の活動などは特に行っておらず、近所の人と会っても会釈をする程度である。

Cさんに友人はいる。ただ、体力的につらいため、会うのは月１回よりは少ない。アルバイト先のコンビニの同僚と休憩中などにプライベートな話をしている。ただ、友人と呼べる人とシフトが重なるのは週２日である。対人関係で問題になるような不和はなく、休職する前には些細なことで怒ることがあったが、現在ではそういったことはない。また、家族関係は悪いわけではなく、夕ご飯を一緒に食べている。